

2022年度

自己点検・評価報告書

2023年3月

学校法人 文理学園

日本文理大学医療専門学校

臨床検査学科

目次

I	学校の現況	1
II	評価の基本方針	2
III	重点目標	2
IV	評価項目の達成及び取組状況	3
	1. 教育理念・教育目標	3
	2. 学校運営	4
	3. 教育活動	5
	4. 学修成果	6
	5. 学生支援	7
	6. 教育環境	8
	7. 財務	9
	8. 法令等の遵守	10
	9. 社会貢献・地域貢献	11
V	総合評価	12

I 学校の現況

(1) 施設の概要

学校名: 学校法人 文理学園 日本文理大学医療専門学校

所在地: 大分県大分市一木1727

施設長: 校長 豊住 昭和

(2) 沿革

1995年(平成7年)NBUメディカルカレッジ 診療放射線学科設置

2004年(平成16年)日本文理大学医療専門学校に改称

2005年(平成17年)臨床検査学科 臨床工学科設置

(3) 学科の構成

課程名	学科名	修業年限	入学定員	総定員	昼夜別
医療専門課程	診療放射線学科	3年	80名	240名	昼間
	臨床検査学科	3年	40名	120名	昼間
	臨床工学科	3年	40名	120名	昼間

(4) 学生数

学科名	1学年	2学年	3学年	全学年
診療放射線学科	78	91	83	252
臨床検査学科	29	39	26	94
臨床工学科	19	21	10	50

(5) 教職員数

	専任	非常勤
診療放射線学科	10	10
臨床検査学科	6	11
臨床工学科	7	15
職員数	23	36

II 評価の基本方針

- (1) 自己点検・評価を行うことにより教育研究活動の現状を把握し、諸機能を活性化させ、その教育水準の維持向上に努めることを目的とする。
- (2) 自己点検・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施するものとする。
- (3) 判定基準

4…適切	適切にされており、特に解決すべき課題はない
3…ほぼ適切	現時点で早急に解決すべき課題はないが、状況把握が必要
2…やや不適切	状況把握を行い、解決に向けた取組みが必要
1…不適切	早急に解決すべき課題である

III 重点目標

1. 学校の教育目標

- (1) 社会に必要とされる、保健・医療の担い手としての人的資質を養い、広く社会に貢献できる医療人を育成する
- (2) 進化発展する、医療技術に対応するために、勉学に励み、日々研鑽を怠らない信頼される医療のスペシャリストを育成する
- (3) 国家試験の全員合格を目指す

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 国家試験合格率100%を目指した教育の実践
- (2) 学生の就職活動の早期化および施設の開拓

3. 学科の目標

- (1) クラス担任との面談および個別指導等による支援体制の強化、資格試験の受験等を通して将来像の意識付けを図ることにより学習意欲を高める。
- (2) 成績不振の学生に対しては、保護者およびクラス担任と連携をとりながら、学習方法や生活習慣の改善を図り留年生の減少を目指す。

IV 評価項目の達成及び取組状況

1. 教育理念・教育目標

評価項目		評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4…適切
2	学校における職業教育の特色は何か	4…適切
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4…適切
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3…ほぼ適切
5	学科の教育目標、育成人材像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4…適切

① 課題
4 学校の教育理念や教育目標の周知が限定的である。
② 今後の改善方策
4 就職活動以前の段階で卒後の目標を立てられるよう、職域について授業等で紹介する。
③ 特記事項
なし

2. 学校運営

評価項目		評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3…ほぼ適切
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3…ほぼ適切
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	3…ほぼ適切
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3…ほぼ適切
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3…ほぼ適切
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3…ほぼ適切
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3…ほぼ適切

① 課題
7 成績や就職などの業務システムが分散している。
② 今後の改善方策
7 教務システムへの一本化を検討する。
③ 特記事項
なし

3. 教育活動

評価項目		評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4…適切
2	教育理念および育成人材像を踏まえ、学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3…ほぼ適切
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4…適切
4	実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3…ほぼ適切
5	業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3…ほぼ適切
6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4…適切
7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4…適切
8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3…ほぼ適切
9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3…ほぼ適切
10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3…ほぼ適切
11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3…ほぼ適切
12	教員の能力開発のために学内において研修等が行われているか	3…ほぼ適切
13	教員の能力開発のために学外での研修等に参加しているか	3…ほぼ適切

① 課題
2 学生間の学力差が開いている。
② 今後の改善方策
2 成績や状況に応じて個別指導等を行い、教育到達レベルの向上に努める。 4 各学会によるガイドラインに基づく指導を行い、卒後のスムーズな実践へつなげる。 11 全ての教員がタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を修了する。
③ 特記事項
なし

4. 学修成果

評価項目		評価
1	就職率の向上が図られているか	4…適切
2	資格取得率の向上が図られているか	3…ほぼ適切
3	退学率の低減が図られているか	4…適切
4	学習の不安を抱える学生へのフォローアップ体制がとられているか	3…ほぼ適切
5	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3…ほぼ適切
6	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3…ほぼ適切

① 課題
5 卒業生の社会的な活躍は、学会誌等での把握に留まっている。
② 今後の改善方策
5 卒業生の動向については、校友会を活用し積極的な把握に努めたい。
③ 特記事項
なし

5. 学生支援

評価項目		評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4…適切
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4…適切
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4…適切
4	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
5	学生の生活環境への支援は行われているか	3…ほぼ適切
6	保護者と適切に連携しているか	3…ほぼ適切
7	卒業生への支援体制はあるか	3…ほぼ適切
8	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3…ほぼ適切

① 課題
2 学生相談に関する体制は整備されているものの、利用率が低い。
② 今後の改善方策
7 校友会活動を活発に行い、Webによる集会の開催も検討する。
③ 特記事項
なし

6. 教育環境

評価項目		評価
1	施設・設備は教育上必要な範囲で十分対応できるよう整備されているか	3…ほぼ適切
2	オンライン授業の実施に必要な環境が整備されているか	3…ほぼ適切
3	防災に対する体制は整備されているか	3…ほぼ適切

① 課題
2 リモート講義の環境は整備されているものの、画像加工等のソフトの利用については共有化されていない。
② 今後の改善方策
2 ソフトの紹介や使用方法などの情報を共有化していく。
③ 特記事項
なし

7. 財務

評価項目		評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3…ほぼ適切
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4…適切
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4…適切
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3…ほぼ適切

① 課題	
1	学生数減少による対応が必要である。
② 今後の改善方策	
1	学生の教育環境に影響しない範囲で財務の見直しを行う。
③ 特記事項	
2022年度以降の学生募集を停止し、2025年3月に閉校予定である。	

8. 法令等の遵守

評価項目		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3…ほぼ適切
2	個人情報保護のための対策がとられているか	3…ほぼ適切
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3…ほぼ適切
4	自己評価結果を公表しているか	3…ほぼ適切

① 課題	
3	自己評価は実施しているものの、体系的なPDCAサイクルのシステムは構築されていない。
② 今後の改善方策	
3	PDCAサイクルを活用し、資質の向上に努める。
③ 特記事項	
なし	

9. 社会貢献・地域貢献

評価項目		評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3…ほぼ適切
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4…適切
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	2…やや不適切

① 課題
1 新学部設置および開設準備に伴い校舎の改築や新築工事が行われたこともあり、施設の活用に制限があった。
② 今後の改善方策
1,3 2023年4月開設の日本文理大学保健医療学部と連携し、積極的な社会貢献および地域貢献に努める。
③ 特記事項
なし

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【学校評価の具体的な目標】

健全な学校運営、社会環境の変化やニーズに沿った質の高い教育の提供を目標とし、その取り組み及び達成状況等について自己点検・評価を実施するとともに、その結果を公表することとする。

また、学校関係者評価委員会ならびに教育課程編成委員会を設置し、各委員会や職能団体の意見を踏まえ、自己点検・評価を学校運営の改善のために適切に実施しPDCAサイクルを実行する。

【総合的な評価】

昨年度と比較して「適切」の数が減少しているため早急な改善が必要である。課題を明確にし、今後の改善方策を検討しなければならない。

新型コロナウイルス感染症の流行後に入学した学生が最終学年となった今年度も、昨年度と同様に臨地実習を中心に行事等への影響がみられた。しかしながら、数年振りに対面形式で実施した行事もあり、少しずつポストコロナに移行している状況である。次年度は、対面授業で得られる効果のみならず、オンラインによる教育環境も有効に活用したい。また、引き続き学校関係者委員会ならびに教育課程編成委員会での意見交換を基に、質の高い教育を学生へ提供し、広く社会に貢献できる医療人の育成に努めたい。